

別紙

## 福祉サービス第三者評価の結果

### 1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 平成29年11月2日から平成30年3月19日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B15018、050482	

### 2 福祉サービス事業者情報（平成30年 2月現在）

事業所名： (施設名) 長野市立 とがくし保育園	種別： 保育所
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 加藤 久雄 保育・幼稚園課長 中澤 和彦	定員（利用人数）： 71名（51名）
設置主体： 経営主体： 長野市	開設（指定）年月日： 平成23年4月1日
所在地：〒381-4102 長野県長野市戸隠豊岡1541	
電話番号： 026-254-3393	FAX番号： 026-254-3393
ホームページアドレス： <a href="http://www.city.nagano.nagano.jp/">http://www.city.nagano.nagano.jp/</a>	
職員数	常勤職員： 10名 非常勤職員： 9名
専門職員	(専門職の名称) 名
	・園長 1名 ・保育士 12名
	・保育主任 1名 ・給食調理員 5名
施設・設備 の概要	(設備等)
	(屋外遊具)
・乳児室 … 1室 ・保育室 … 4室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 4室	
・2間鉄棒 ・小型滑り台 ・6角はん登棒	

### 3 理念・基本方針

<p>○長野市保育理念</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子どもの健やかな心身の発達を図り望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。</li><li>・児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもの保育を目的とする。</li><li>・子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。</li></ul> <p>○基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。</li><li>・専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い子どもの発達を援助します。</li></ul>
---

- ・保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- ・家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- ・保育を実践するにあたっては、保育の基本となる「保育課程」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じて柔軟な保育を展開します。

○長野市立とがくし保育園の保育目標

- ・好きな遊びを見つけられる子ども
- ・故郷戸隠を大好きになる子ども

#### 4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当とがくし保育園は長野市が直接運営する30園(内保育所型認定子ども園1園・休園1園)のうちの一つで、平成17年1月に旧戸隠村が長野市に合併されて以降、長野市として運営してきた戸隠中央、戸隠宝光社、戸隠東ノ原の3保育園が統合され平成23年4月1日に「とがくし保育園」として現在地に新築された。

長野市戸隠地区は長野県北部、妙高戸隠連山国立公園に属する戸隠山の南東方面に広がり、長野市と信濃町にまたがる標高1000~1200mの高原で、地区には奥社・中社・宝光社・九頭龍社・火之御子社の五社からなる全国的にも有名なパワースポットの戸隠神社があり、宿坊の集まる集落が形成され、昭和30年代には観光開発が進み、スキー場、森林植物園、牧場、キャンプ場などがある。風土と自然条件がマッチしているため、霧下そばと呼ばれる薫り高い風味のおいしいそばができ、初夏と初秋の2回咲くそばの白い花が高原一面に広がり、戸隠そばとして名物となっている。江戸時代初期から受けつがれてきた戸隠特産の根曲り竹による竹細工などもあり、歴史と伝統の重みを感じる長野市内でも重要な観光スポットとなっている。

当保育園は標高910mという長野市公立保育園一の高い場所にあり、北隣の地続きに戸隠小学校、近くには長野市役所戸隠支所や市戸隠農村環境改善センター、市戸隠保健センター、森林組合連絡所、JA支所などがあり戸隠地区の中心部を形成している。

当園では長野県が進めている「信州やまほいく認定制度(信州自然型保育認定制度)」の認定園として「豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの”人生の根っこ”を育みます」という活動を推進しており、園舎の玄関を入ると当園を中心とした地域マップが掲示され、いくつかの散歩コースからは急峻な戸隠山の山容と裾野に広がる森林や田畑を眺めることができ、天候に関係なく、毎日、園外に出掛け、かつては海であったという戸隠の歴史や立地を生かし、戸隠独自の動植物に親しんだり、様々な自然から学び足腰を鍛え、地域の人々とも関わっている。

現在、当園には1歳児5名のひよこ組、2歳児6名のりす組、3歳児13名のどんぐり組、4歳児13名のいちご組、5歳児14名のすみれ組の五つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせて作成された平成29年度「保育課程」の四つの「保育方針」に掲げた「豊かな自然を生かし子どもの発達を援助し、主体性や自己肯定を育みます」、「安全で安心できる生活の場を整え、友だちや保育者との関わりの中で、自立や協調の態度を養います」等に沿い、「好きな遊びを見つけられる子ども」、「故郷戸隠を大好きになる子ども」という当園の保育目標の実現に向けて全職員が前向きに取り組んでいる。

また、当園では保護者の就労と子育ての両立等を応援するため保護者のニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、おひさま広場、障害児保育等を実施している。長時間保育は短時間利用者が時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者がいる。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで当園でも希望される方がいる。おひさま広場は未就園児と保護者対象に園開放及び子育て相談を行うサービスで6月から翌年2月の毎週木曜日に実施しているほか園の公開の行事への参加も受け入れている。障害児保育は保育を必要とする心身に障害を持つ子どもの保育を行うサービスで園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿ったビジョンを明確にして

おり、次年度 2018 年度から 2020 年度までの中期計画として「信州やまほいく」の充実や長野市運動プログラムと共に戸隠独自の「コアキッズ体操」の普及などを掲げ具体的に進めており園内の環境づくりや職員の資質の向上などに積極的に取り組んでいる。更に、地域の「とがくしっこ応援団」や関係機関との積極的な連携及び協働を図りつつ、園の平成 29 年度の重点課題、「保育内容の充実」、「保護者支援」、「安全・安心な保育の実施」などに懸命に取り組んでおり、戸隠の子どもは戸隠地域の全住民で育てるとする「地域の子育て支援」の拠点としての役割も十分果たしている。

## 5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

## 6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

### ◇特に良いと思う点

#### 1) 豊かな自然を生かした保育の実践

当保育園の保育方針の一つとして「豊かな自然を生かし子どもの発達を援助し、主体性や自己肯定感を育みます」とし、また、「好きな遊びを見つけられる子ども」という保育目標を掲げ、その一環として長野県が推奨している信州型自然保育、信州やまほいく認定園として登録し、戸隠という豊かな自然と温かな地域の中で、子どもたちの人生の根っこを育てている。

当保育園を取り巻く戸隠の自然環境は何物にも代えがたく、当園の事業計画の今年度の重点課題の一つ、「保育内容の充実」の中にも「新保育指針に基づき、『信州やまほいく』の実践を通じて、非認知能力を育成する」としており、職員も自然保育の理念をしっかりと共有しており、その成果についても手ごたえを感じている。

「非認知能力」とは、「目標を達成するための『忍耐力』・『自己抑制』・『目標への情熱』」、「他者と協力するための『社会性』・『敬意』・『思いやり』」、「情動を抑制するための『自尊心』・『楽観性』・『自信』」などの力や姿勢を指すものとされており、小学校以降の学力の土台となるこの「非認知能力」を十分に育て更にそれ伸ばすことで、生涯にわたって自分を成長させたり、豊かな人間関係を構築する等、人生のあらゆる営みの支えとなるものとされている。当保育園でも子どもの育ちをつなぐ接続期(アプローチ・スタート)カリキュラムを戸隠小学校と連携し推進しており、就学を見通した当保育園のアプローチ過程では「学びの自立」、「生活上の自立」、「精神的な自立」を養うために日々の保育で具現化を図っている。

当保育園では散歩や川遊び、雪遊びなど、子どもたちが週に5時間以上戸外に出て遊び、戸隠地区ならではの恵まれた自然を体感している。また、戸隠ならではの環境省レンジャーによる「外来種駆除の教室」やとがくしっこ応援団の協力活動の一環としての「ファール先生による昆虫教室」、戸隠地質化石博物館職員によるハクビシンなどの地域の動物の紹介なども行われており、生命、自然及び社会の事象について興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培っている。訪問調査の際の昼食やおやつを共にする中でも、感じたまま見たまま、不思議なことは不思議と発言する子どもたちを目の当たりにし、大変頼もしい存在であると感じた。

当保育園の2018年度からの3年間の中期計画でも2017年度に認定を受けた「信州やまほいく」を5年サイクルで充実させるとしており、長野県における自然保育という新たなカテゴリーの構築と発信に、さらに、独自性に磨きをかけ自然保育実践の旗手としての牽引役を果たそうとしている。

#### 2) 地域社会との交流と連携

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針には「『育ちを支える』家庭・地域との連携」が掲げられており、その細目として「地域交流活動の充実」が挙げられ、「地域住民が子育ての知恵等を生かして教育・保育活動に参加することで、地域とともに子育て支援を行う教育・保育施設を目指します」等としている。また、「長野市子ども・子育て支援事業計画」では地域の学校教育等への協力についての姿勢も明文化されている。

当保育園のある戸隠地域には住民全体で域内の子どもを育てるための「戸隠コミュニティスクール構想」があり、その支援組織としての「とがくしっこ応援団」があり「学習・健康」、「歴史・

文化」、「環境」、「農林」、「商工」、その他関係団体等のスペシャリストにより「保・小・中・高」の子どもたちとの交流が図られている。

当保育園の保育課程の保育方針でも「家庭や地域との連携を図りながら、共に子どもの成長を支えます」としており、地域と積極的な連携を図り地域社会での生活体験の場を作っている。地域で進められている国道 406 号線の祖山トンネルの工事現場を見学したり、戸隠の伝統的な文化を継承する意味から「故郷戸隠を大好きになる子ども」という保育目標を掲げ、戸隠神社の禰宜による年神様の話、園近くのお寺の住職によるコマ回し指導と涅槃会への招待、また同じお寺の茶室での茶道体験、地域のボランティアによる地域に係る人形劇なども行われている。また、地域の子どもフェスティバル、地域の運動会、交番・消防の情報、とがくしっこ応援団の活動等のチラシを配布したりポスターなどを掲示し地域の人々と親しく関わることができるようにしている。

園では世代間交流にも力を入れており、近くにある老人福祉施設の運動会に参加したり、その施設へハロウィンの行事で訪れ利用者と交流したり、また、域内のデイサービスのお年寄りたちを訪ね、歌や踊りなどを披露している。園で行われる夏祭りや運動会、クリスマス会、しめなわ作り等でも地域の人々とふれあう場を設けており、地域の子育て支援の拠点としておひさま広場での園開放、育児講座、育児相談などにも取り組んでいる。小学生・中学生、高校生などの職場体験やボランティアなどの受け入れを行い、愛着などの感情を育んだり、中学校の家庭科の授業への協力なども行い子どもと関わる楽しさを伝え、実習生の受け入れで将来の保育を目指す若者の育成にも努めている。

### 3) 保育園、小学校、中学校、高校分校との連携

当保育園のある戸隠地区は長野市の他の周辺地域と同じく過疎化が進んでおり、小人数ながら保育園から中学校まで同じ仲間であら育ち、また、地域の特色を生かした高校の分校まで進学することができる。近い将来当保育園の子ども達が就学する戸隠小学校は当保育園と同じように平成 18 年 4 月に戸隠小学校・戸隠小学校宝光社分校・柵小学校の 3 校を統合したもので当保育園に隣接している。また、戸隠中学校も当保育園から車で 5 分ほどかからない場所にあり、県立吉田高校戸隠分校も現在、宝光社地区にあり、それぞれ地域に根付いた学校として、学校行事や体験学習等を通じて、地域に開かれた学校となっている。

戸隠地域には「戸隠コミュニティスクール構想」があり、その支援組織としての「とがくしっこ応援団」があり、地域全体で進める「戸隠教育（学校・家庭・地域の役割）～戸隠の子は戸隠全体で育てる～」を掲げ、「心身ともにたくましく、意欲的な子ども」、「主体的に取り組み、自己の可能性をのばしていく子ども」、「戸隠を愛し、戸隠の未来を考える子ども」、「礼儀正しく、思いやりを持った子ども」の育成を目指し、戸隠に生きる子どもたちを丸ごと支える体制が整えられている。

また、当保育園、戸隠小学校、戸隠中学校、吉田高校分校の四者と地区内有識者、保護者代表、「とがくしっこ応援団」代表などで「戸隠コミュニティスクール運営委員会」を構成しており、お互いに学校運営に参画したり、学校支援・学校関係者評価で関わりを持っている。

当保育園でも、「故郷戸隠を大好きになる子ども」という目標を掲げ連動しており、事業計画にも「『とがくしっこ応援団』という地域の人材を生かし、園目標につなげる」としている。

「第二次長野市教育振興基本計画」の学校教育分野の実施計画としての「しなのきプラン 29」には児童生徒の「学びをつなぐ」学校種間(幼保小中高)の連携が挙げられており、また、長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針にも「『育ちをつなぐ』幼・保・小の連携」が挙げられ、当保育園の活動でも園職員と小学校・中学校職員との交流、意見交換や合同研究の機会が設けられ、お互いの教育内容の理解や情報共有を行い、戸隠地域の子どもが自然体で安心してそれぞれの就学、進学先に引き継がれるようにしている。

### 4) 全職員による保育とチームワークの良さ

現在、当園には 1 歳児から 5 歳児の各年齢の 5 クラスがあり 51 名の子どもが通っており、日中の職員は園長も含め 8 名(給食調理員除く)と、子どもの数、職員数共に少人数で、小規模園の保育の特徴を生かし、職員全員で全ての子どもを育くむように一人ひとりの子どもの保育を振り返り発達の状況を共有し成長を見守っており、園長、主任、職員、双方向のコミュニケーションが十分に取れている。

市街地から遠いという立地面から、朝夕パート保育士、代替保育士、休憩パート保育士等の確保や人のやり繰りは難しい面もあるが、逆に幅広い年齢層の保育に熱意のある経験者がフォローに入っていることで新しい職員や中堅どころの職員も気軽にかつ頻りに相談できる職場環境が自然に作られている。基本的に各クラスは一人担任であるが、担任・非担任にかかわらずクラスの垣根を超えた園児対応、保育への支援体制が出来上がっており、それが、園児や周囲に対し十分に配慮・気遣いのできる職員の育成へと繋がっている。

職員は当保育園の「未満児・幼児保育の一日」の流れに沿い、子供たちが「生活し易い」ということを第一に考え、一人ひとりの子どもの興味・関心・発達に沿う保育を心掛けており、今やりたい自分の好きな遊びを選択し、目的をもってその遊びに集中して取り組めるように臨機応変に対応している。また、職員同士が季節やその日の天候をみて共同し異年齢での散歩や遊びにも取り組んでおり、遊びを通して集団の中で自分の遊びを決め(自主)、集団の中でルールを守ること(自立)を学べるようにしている。

職員の仕事と生活の両立という面でも休暇取得の促進、短時間労働の導入、時間外労働の削減などにも職員全体として取り組んでおり、介護や育児などの状況に応じて休暇も取得できるように配慮もされている。保育士としての専門性を高めるための内部研修や市としての研修、復命での外部研修についても職員同士お互い融通し合い日程を調整し、自主参加の研究会への参加もお互いに支援・協力し合っている。

## ◇特に改善する必要があると思う点

### 1) 保護者との更なるコミュニケーションの充実

当保育園の事務室からは園の出入り口が良く見え、保護者の送迎時には園長や保育主任が声掛けすることができ、また、職員も常に声を掛け子どもの様子や活動の様子を伝えながら保護者との関係性が良好になるような雰囲気づくりと対話を心掛けている。個別懇談会やクラス懇談会時、朝夕の送迎時、連絡帳等で何時でも相談できるようになっている。

立地的な課題でもあり当保育園では園バスが運行されており希望する子どもの送迎が行われている。朝夕の送迎のできる保護者にとっては園とのコミュニケーションを取ることは比較的容易かもしれないが、園バス利用の保護者とは日ごろ連絡帳により行われることが多く実際の保育園の様子が分かりづらいため、今一つ、全体像が把握しづらいということが考えられる。

今後も保護者の就労等の都合から園バスを利用する子どもが多いと思われることから保護者へのこまめな報告・連絡をはじめとする意思疎通について、引き続き、また、更にきめ細かな対応についてブラッシュアップしていただくことを期待したい。

### 2) 自然環境を活かした体験活動(自然保育)の継続

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅰ『育ちを豊かにする』教育活動の推進」の取組の方向性Ⅰ-1としての「自然環境を活かした体験活動(自然保育)の充実」の中の目指す内容の一つに「市立保育所においては自然保育を積極的に取り入れ、信州自然型保育認定園を増やします」と掲げている。

信州型自然保育(信州やまほいく)については、時代の要請や周囲の期待もあり、極めて重要なプロジェクトではないかと思われる。現在、当保育園も信州やまほいく認定園として登録されており、当園の中で構築された理念やノウハウが職員にも理解され浸透している。また、保護者のアンケートでも「やまほいくの姿勢はとても素晴らしいものだと思います、家庭ではなかなかできないこと(川遊びや雪の中での散歩等)を体験できて子どもが楽しかったと嬉しそうに話してくれるのでありがたい」との満足の声も聞かれている。

自然環境を活かした体験活動としては様々な手段・方法があるものと思われるが、公立保育園として職員の異動は避けることはできず、戸隠という地域に根差した自然保育を実践している当保育園として職員が変わることによりその継続性が途絶えることのないよう市としてもサポートし、更に充実されて行くことを切望したい。

## 7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の运营管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

## 8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

## 9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（平成30年 3月16日記載）

長野市としての第三者評価受審3園目、もちろん当園としては初めての受審である。長野市公立保育所として、数年前から第三者評価に対する研修を積んできたことが、実際の外部評価となった今年度どう生かされるのか、園長を始めとして職員一同不安の中での受審となった。

コスモプランニング様には丁寧な対応をしていただき、そのような不安も徐々に少なくなり、これまでの取り組みに自信を持って良いとの自覚が生まれてきた。各職員と子どもたち共に、平常通りの活動の中で保育や聞き取り等に臨めたと思う。

評価結果を読み込むと、実に広くまた的確に、戸隠地区と保育園に対して読み取られていることに驚き、感嘆する。ここ戸隠の地で、保育に取り組むことができることに感謝し、自分たちのモチベーションも上がる評価としていただいている。

今回の受審が、自分たちの保育全般をまさに「第三者」的な見地から再考・再確認する良い機会となった。負担ではなくチャンスと捉え、このことに感謝するものである。